

東日本大震災後の大学生の 環境配慮行動の変化



生活文化学科 安藤ゼミ
09461237 奥村 文那

目的

東日本大震災後の節電行動に対し

- 節電の地域差はあるのか。
 - 東北地方の学生が最も節電を行っているのではないか。
- 原子力発電所への考え方はどう影響するか。
 - 原子力発電所の安全性に対し、疑念を抱いている人の方が節電をおこなっているのではないか。
- 地域・大学への帰属意識はどう影響するか。
 - 地域・大学への帰属意識が高い人ほど、節電を行っているのではないか。

について検討する。

方法

◆ アンケートによる調査

- 調査時期 2012年4月～6月
- 対象者 東北・関東・関西の大学に
在籍する365名の大学生

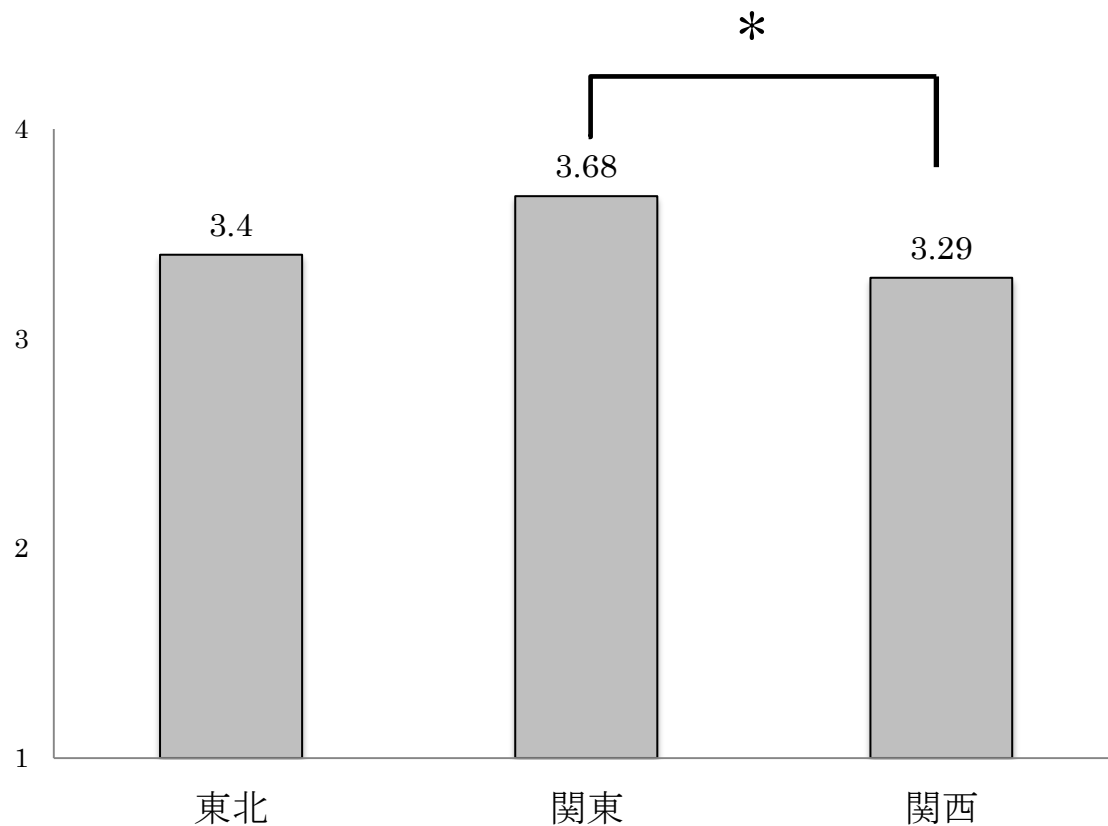
安藤先生が自身の研究で使用したデータの
一部を用いた。

◆ インタビューによる調査

- 調査時期 2012年10月～12月
- 対象者 関東・関西に在住する女子
学生（関西13名・関東2名の15名）

結果① 節電の地域差

- 震災後昨年よりも積極的に節電を行っていると答えたのは関東地方の学生に最も多かった。



注 * $p < .05$

図：震災後の積極的節電実行度

インタビュー調査の結果

- インタビュー回答者が普段行っている節電（冷暖房に関する
こと以外）



使っていない電気製品はコ
ンセントから抜く(10名)



図書館・学校に行き、部屋
にいないようにする(5名)



電気をこまめに消す (5名)



冷蔵庫の中を整理する・設
定温度を弱にする(2名)

②震災の影響と節電

- 重回帰分析の結果、震災後の積極的節電は、“震災後の人生観の変化” “計画停電の有無” が規定因となり、行われていることが分かった。

表 震災後の積極的節電における重回帰分析	
	標準偏回帰係数
計画停電の有無	.144**
原発疑念	.075
震災影響	-.056
震災後の人生観の変化	.322***
大学への帰属意識	-.01
地域への帰属意識	.053

$R^2 = .162$
 $F = 11.464***$
注 p***<.001 p**<.01

- しかし、インタビュー調査の結果では原子力発電に疑念を抱いている人ほど節電の実行度が高かった。

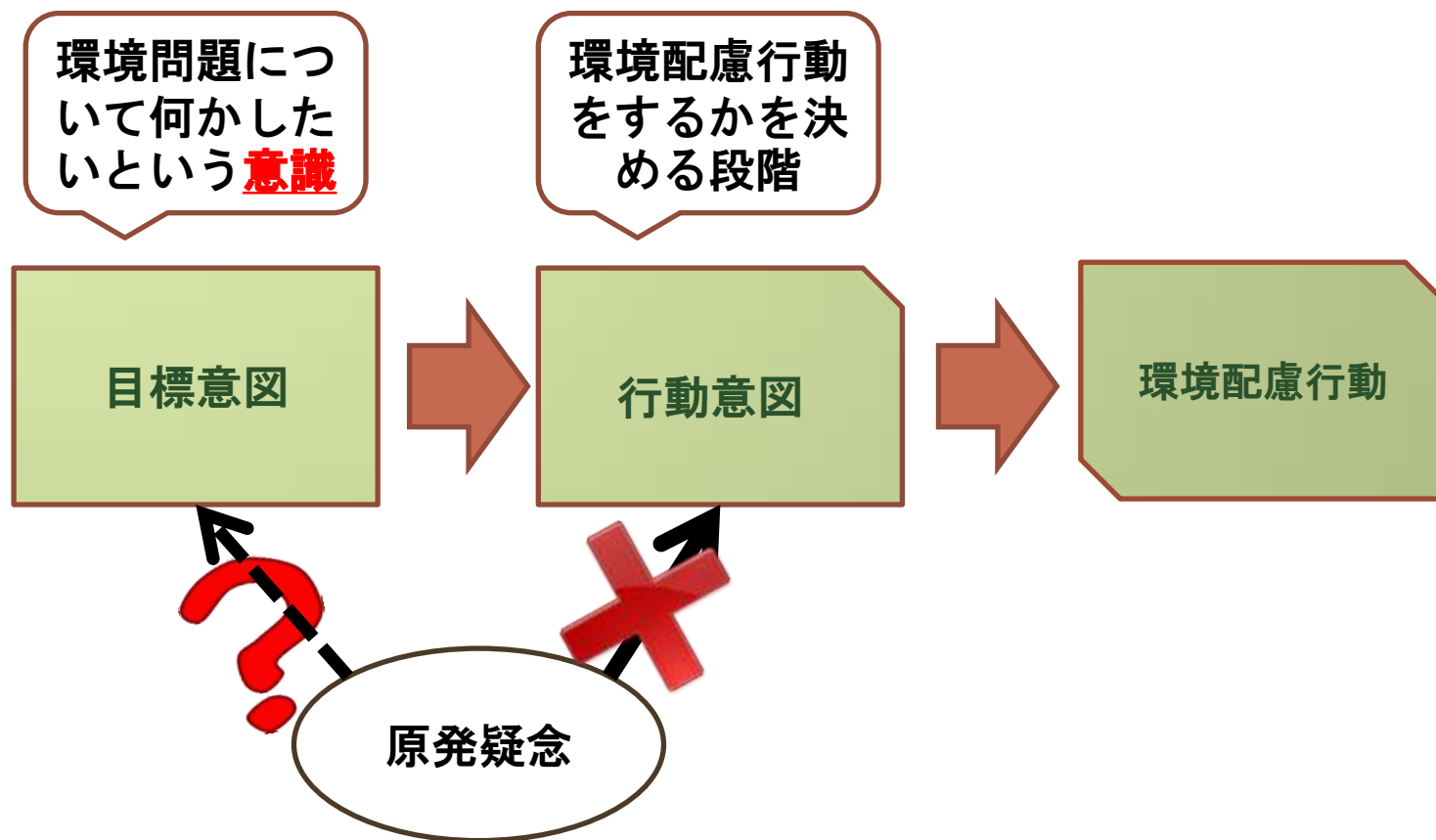
考察①

- 東北の学生の節電実行度が低かったのは、節電を行っている余裕など無かった為であると考ええる。
- 節電は地域や大学だけの問題ではないため、帰属意識は節電行動に影響を与えないのではないか。



考察②

- 原子力発電所への疑念は行動意図ではなく、目標意図に影響を与える可能性がある



さいごに

- 大学生は部屋にいない場合が多い。

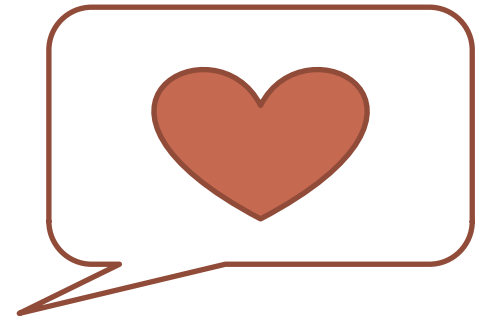
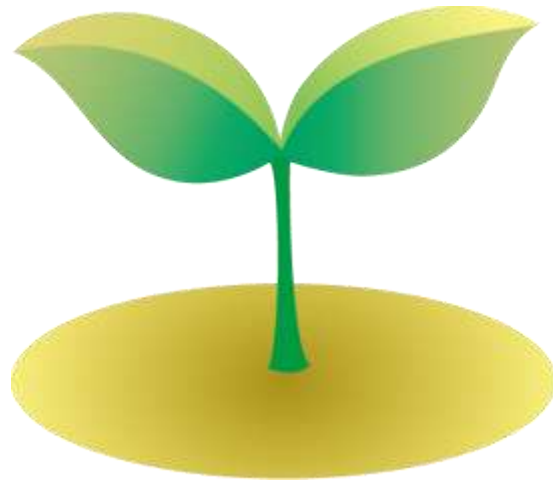


積極的に外出し、公共施設等にいるようにすることは結果として個人の節電に役立つ。

- 節電以外の他の環境配慮行動の変化についても同様な結果が得られるのか、今後検討していきたい。



ご清聴ありがとうございました。



震災前と震災後の電力需要変化

【表】家庭における2011年度夏の電力需要最大値の対昨年度比

経済産業省（2011）「今夏の電力需給対策のフォローアップについて」HPより抜粋

最大ピーク需要（kW）	東北電力	東京電力	関西電力	九州電力
最大値の対昨年比	▲22%	▲6%	▲14%	▲14%

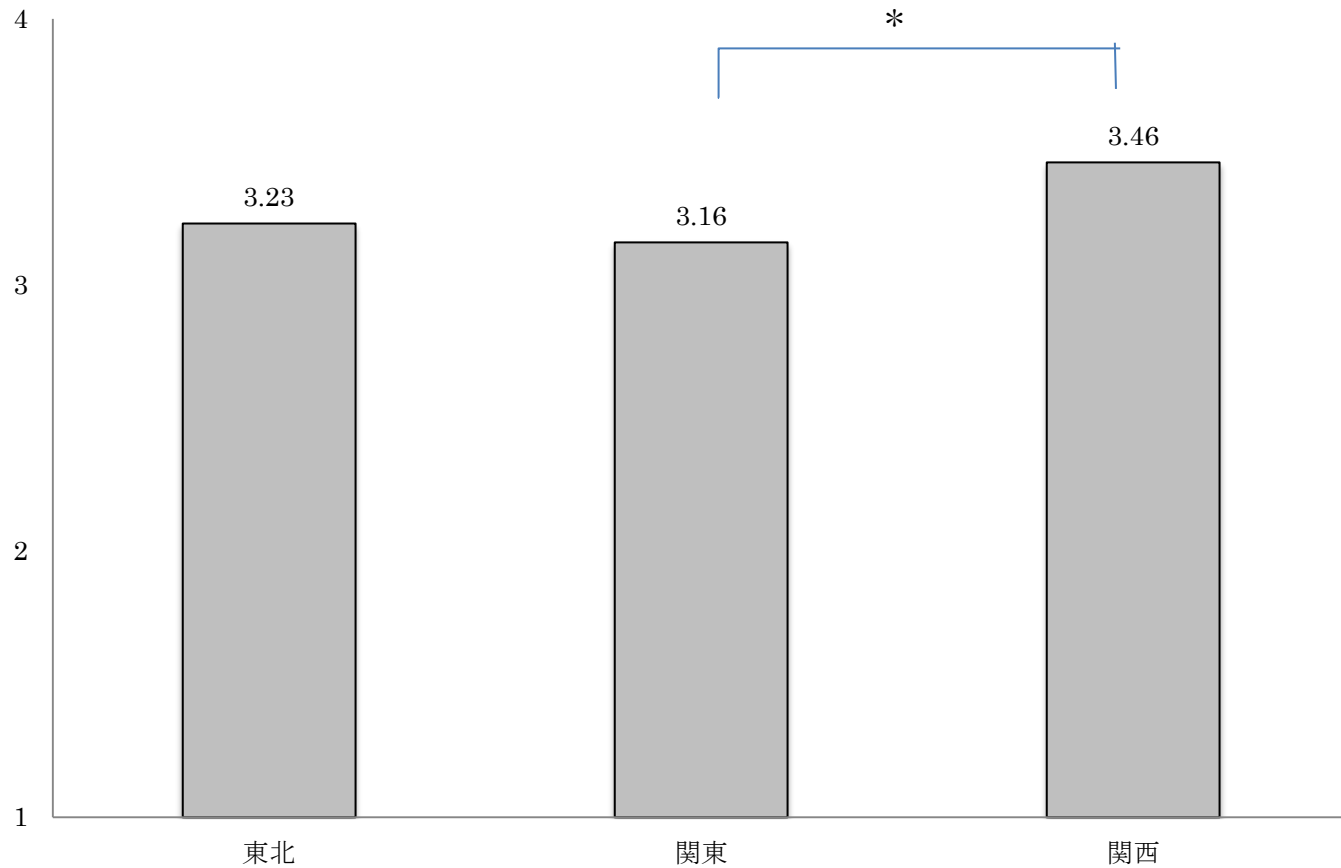
震災後の節電と節電以外の 環境配慮行動との相関

震災後における節電行動と使い捨て商品不買・リサイクル・ゴミの分別における相関

	1	2	3	4	5
(3R行動)					
1 使い捨て商品不買					
2 積極的なリサイクル	.234**				
3 ゴミの分別	.01	.388**			
(震災後の節電行動)					
4 震災以前よりも積極的な節電	.110*	.069	.152**		
5 震災以前よりも冷房の使用抑制	.097	.132*	.145**	.648**	
6 震災以前よりも暖房の使用抑制	.156**	.074	.160**	.538**	.608**

注 **p<0.1 *p<0.5

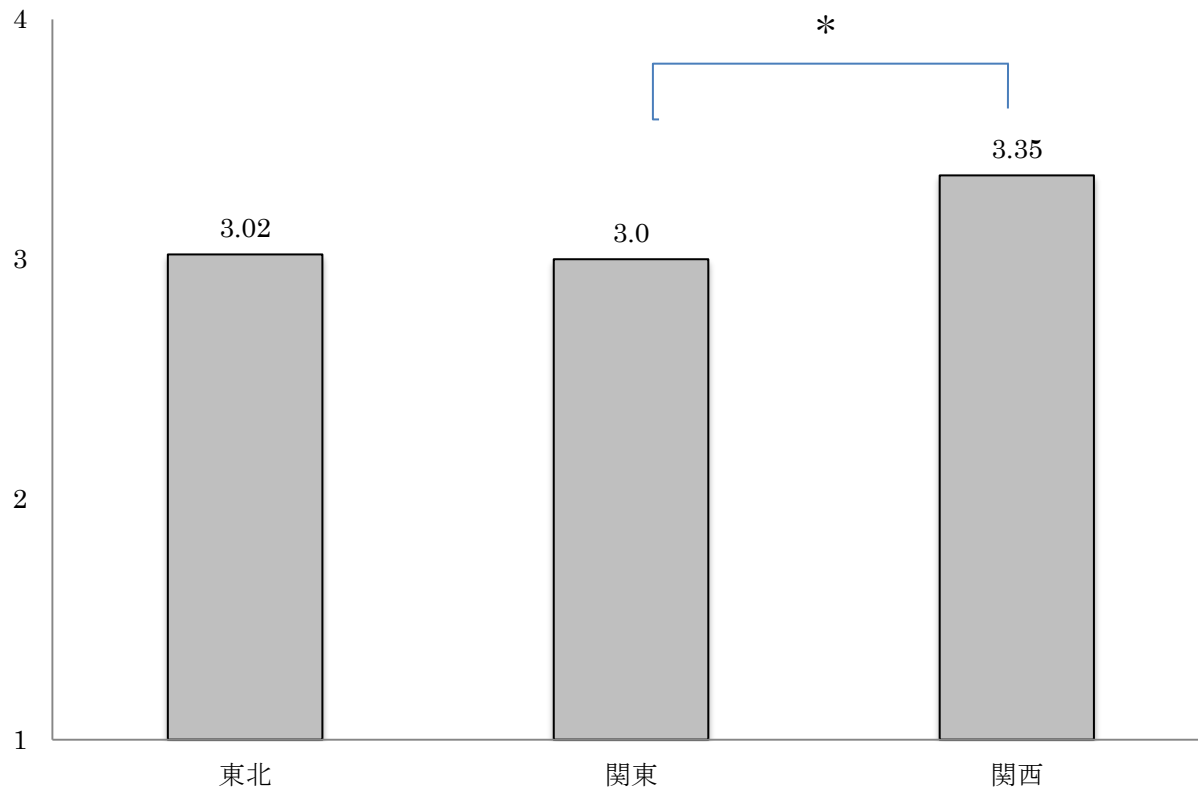
地域への帰属意識



注 * $p < .05$

図：地域別地域への帰属意識

大学への帰属意識



注 * $p < .05$

図：地域別大学への帰属意識

③原子力発電と節電

- 原子力発電所への疑念は重回帰分析の結果、有意な説明変数とならなかった。
 - しかし、インタビューの結果、原子力発電への疑念が高い人の方が節電を行っているという結果が得られた。

